鳥取県における活動と地域診療連携における課題

2025年第1回全国てんかん対策連絡協議会
鳥取大学脳神経小児科
岡西 徹

鳥取県

人口	推計てんかん人口
総人口531,000人	3,300人
0-14才人口：63,000人	500人
15才以上人口：468,000人	2,800人

鳥取大学医学部附属病院

鳥取大学医学部附属病院(てんかん診療拠点機関)
鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業

沿革と組織

- 鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業として2015年より運営開始
- 年間60万円の支援
- 脳神経小児科・脳神経内科・精神科・脳神経外科（山陰労災病院）が参加
- てんかん診療支援コーディネーター2名（看護師経験者）を配置

閲覧件数は3000-4000件/月

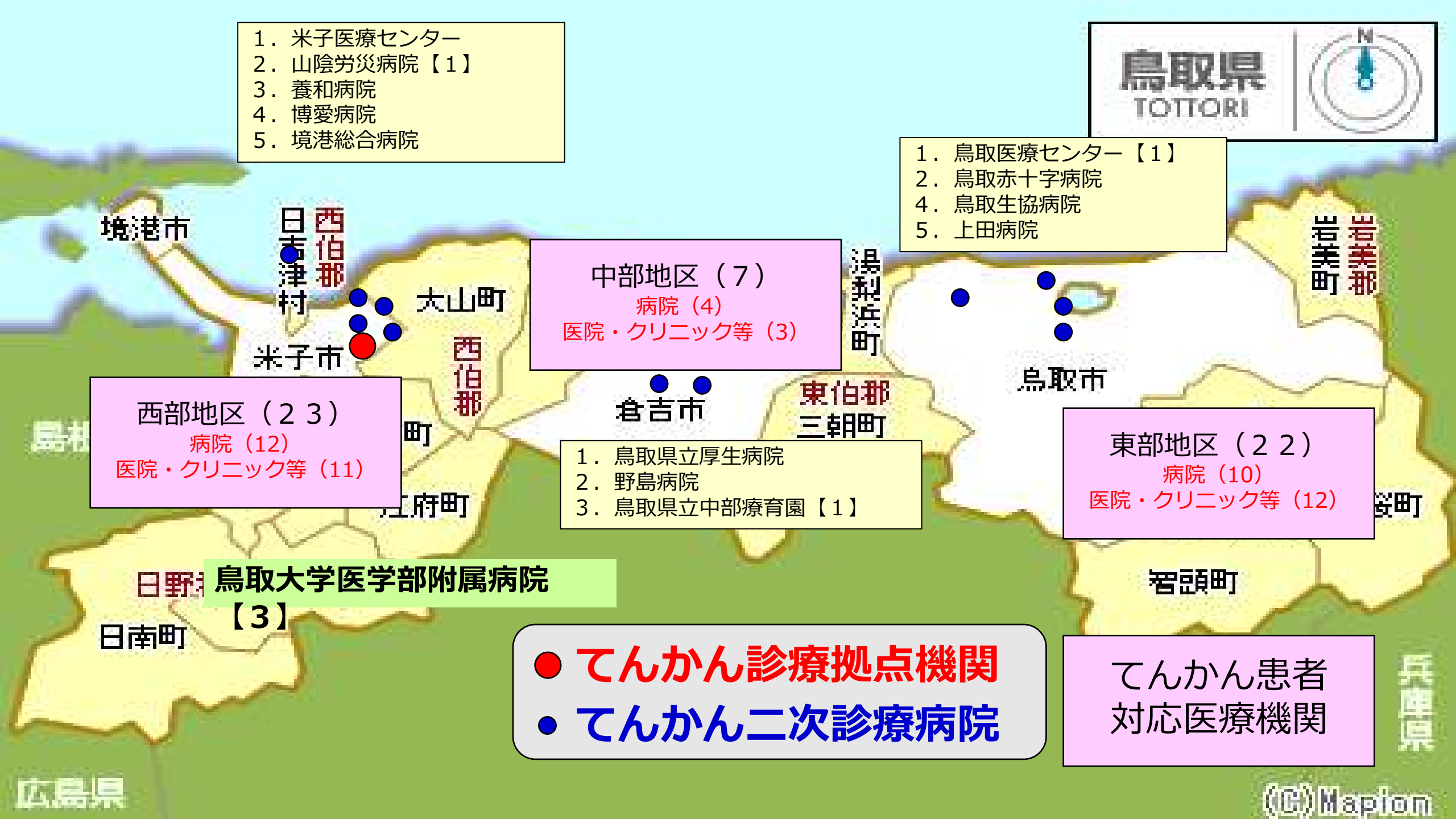
事業内容

患者相談

- 2024年度は合計11件（近年減少傾向）
- 相談者：患者ご本人（5件）・ご家族からの相談（2）・医療従事者（1）・行政/福祉/教育関係者からの相談（4）
- 内容（重複あり）：病気のことについて（5）・セカンドオピニオンと紹介（5）・紹介（2）・かかりつけ医について（2）など
- 対応：話を聴く（3）・鳥大への紹介（3）・専門医への紹介（4）・他医療機関への紹介（3）

診療ネットワーク

- 11の二次医療機関と連携を結んでいる
  - 鳥取医療センター、鳥取赤十字病院、鳥取生協病院、上田病院、鳥取県立厚生病院、野島病院、米子医療センター、山陰労災病院、養和病院、博愛病院、境港総合病院


1．米子医療センター
2．山陰労災病院【1】
3．養和病院
4．博愛病院
5．境港総合病院
鳥取県
TOTTORI
N
1．鳥取医療センター【1】
2．鳥取赤十字病院
4．鳥取生協病院
5．上田病院
境港市
日吉津村
西伯郡
大山町
米子市
西伯郡
中部地区（7）
病院（4）
医院・クリニック等（3）
湯梨浜町
岩美郡
岩美町
鳥取市
倉吉市
東伯郡
三朝町
西部地区（２３）
病院（12）
医院・クリニック等（11）
町
江府町
1．鳥取県立厚生病院
2．野島病院
3．鳥取県立中部療育園【1】
東部地区（２２）
病院（10）
医院・クリニック等（12）
智頭町
若頭町
日野
日南町
鳥取大学医学部附属病院
【3】
てんかん診療拠点機関
てんかん二次診療病院
てんかん患者
対応医療機関
兵庫県
広島県
(C)Mapion

事業内容

研修会（2024年度）

- てんかん治療医療連携研修会（医師）：てんかんの基礎と脳波の読み方（10/10）
- てんかん治療医療連携研修会（医師）：てんかんの基礎知識（2/17）

普及啓発活動（2024年度）

- 市民公開講座（年度ごとに医師・招待者と異なる）：加納塩梅先生（講談師・てんかん患者・看護師）「病気だって友達」（2/16）米子コンベンションセンター
- 啓発パンフレットの作成と配布：保育施設等公共施設に向け、看護師向け
- 教員向け講座（オンライン）：てんかんってどんな病気？（8/2）
- パープルデーライトアップ：米子駅をライトアップ

パープルデー（3/26）・公開講座（2/16）

事業内容

研修参加（2024年）
- てんかん診療支援コーディネーター研修会（7/21）

会議
- 鳥取県てんかん治療医療連携協議会（8/1）：オンラインによる委員と県職員との会議

委員

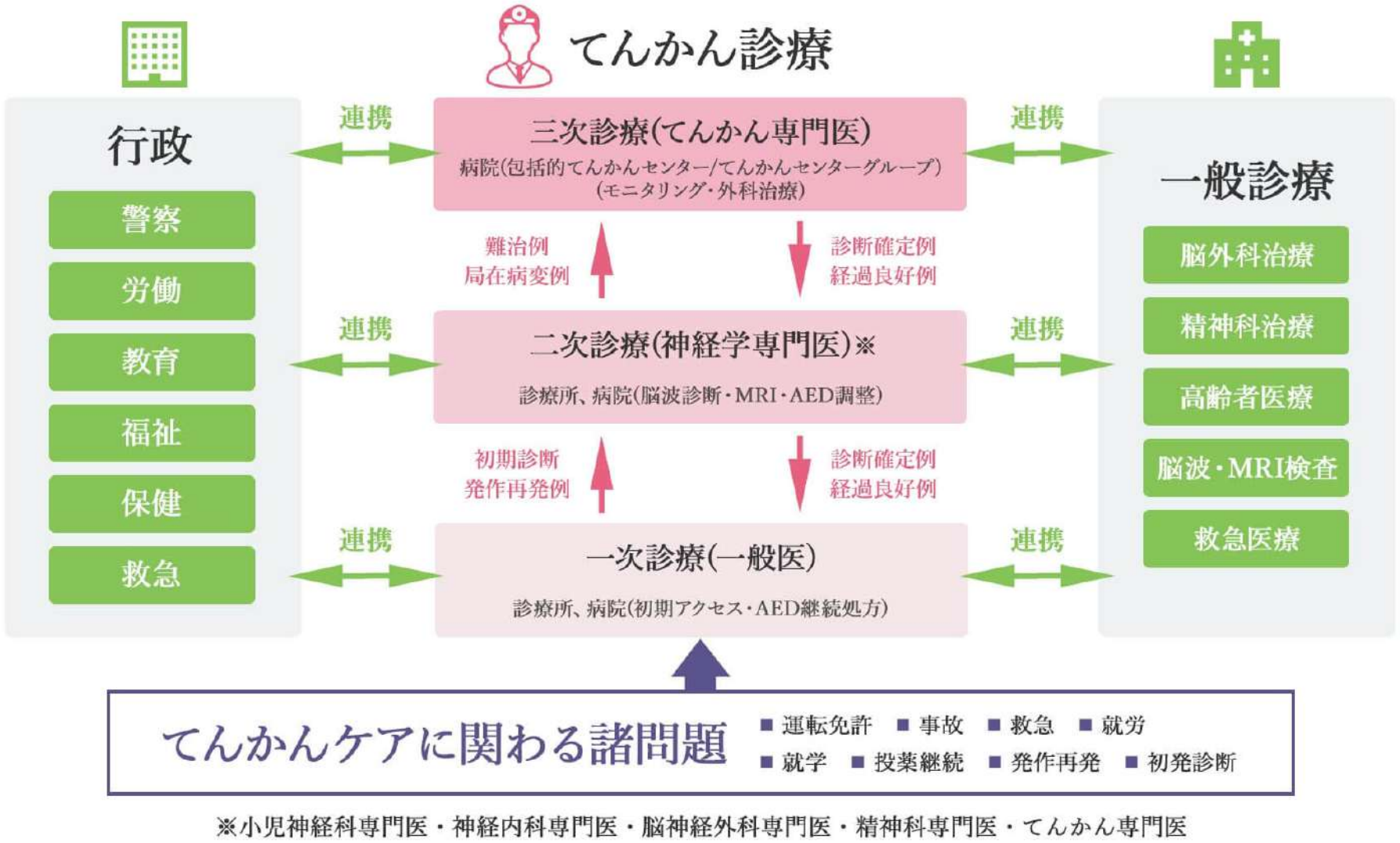
委員一覧(11名)

氏名		職業(役職)
機関長	前垣義弘	医師(鳥取大学医学部脳神経小児科教授、てんかん専門医)
委員長	岡西徹	医師(鳥取大学医学部脳神経小児科准教授、てんかん専門医)
委員	吉岡伸一	医師(鳥取大学名誉教授、てんかん専門医)
同	植田俊幸	医師(鳥取県立厚生病院精神科)
同	小林一義	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障害福祉課長
同	山根康暉	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障害福祉課精神保健担当
同	原田豊	医師(鳥取県立精神保健福祉センター所長)
同	藤井秀樹	医師(西部総合事務所福祉保健局/米子保健所長)
同	足羽泉枝	看護師(日本てんかん協会鳥取支部代表)
同	渡部恵子	NPOあかり広場代表 日本てんかん協会鳥取支部
同	渡邉耕一郎	NPOあかり広場職員

てんかんコーディネーターの役割と課題

- 現在2名（看護師資格有・事務を兼任）
- 鳥取大学医学部附属病院内（脳とこころの診療連携支援室）に設置された相談室に在室
- 非常勤(パートタイム）で月・火・木・金曜日の13時～16時
- 相談事業：電話相談が主体だが希望があれば面談も行う。
- その他事務仕事：研修会・会議のマネジメントなど全般

医療連携



※小児神経科専門医・神経内科専門医・脳神経外科専門医・精神科専門医・てんかん専門医

鳥取県のてんかん専門医

杉浦千登勢	中部療育園（小児科）
吉岡伸一	定年退職（精神科）
前垣義弘	鳥取大学医学部 脳神経小児科（小児科）
金井創太郎	鳥取大学医学部附属病院（小児科・米国留学中）
岡西　徹	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科（小児科）
太田健人	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科（小児科）
荒井勇人	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科（小児科・独国留学中）
近藤慎二	鳥取県済生会境港総合病院 脳神経外科（脳外科）
稲垣真澄	鳥取県立鳥取療育園（小児科）

殆どが大学の脳神経小児科の小児科医
脳神経内科ゼロ
若手の脳外科医・精神科医（鳥大）が専門として志望で勉強中

現状の問題点

事業として

- コーディネーターの勤務形態と人数の制限
  - ➢非常勤で平日午後の限られた時間のみの対応．対応範囲や活動可能性に制約．将来的な人員確保・後継者育成も課題
- 相談件数が減少傾向20/年→10/年程度と減少傾向
  - ➢対策→HPのデザイン改善，相談窓口が分かりやすい様にしたがあまり変わらず．相談したい人自体が減っている可能性
- 教育・保育・福祉連携の弱さ
  - ➢教職員や保育者に対するてんかん教育・対応訓練の普及不足福祉・就労支援機関との連携体制が弱く、社会的自立支援が不十分
- 情報発信・啓発の課題
  - ➢パープルデーや市民講座などは行っているが、若年層やSNS世代への訴求は弱い可能性外国人・多文化家庭への情報提供が不十分（多言語対応）
- 患者登録・疫学データの不在

  鳥取県におけるてんかん有病率や診療実態の正確なデータが未整備長期経過・予後・QOLを追う地域レジストリ的な仕組みの欠如

現状の問題点

診療として

- 専門医の不足

  小児科系の専門医しかほぼいない状況

  大学での成人科のてんかん志望者に向けて勉強会の開催・脳神経小児科カンファレンス参加を行って指導している

- 地域間の格差中部・西部での医療資源偏在

  特に中部地区（例：倉吉市周辺）のてんかん医療対応施設・医師が少ない．アクセスに地域格差.

  移動困難な高齢者や障害児家庭への配慮：交通手段・付き添いが必要な家庭では通院が困難．遠隔診療の導入余地（鳥大で行っているが利用は少ない）

- てんかんセンターの不在

  手術は県外で行っている（大阪市総合・大阪公立大・広島大）

- トランジションが難しい

  大学の脳神経内科・精神科である程度受け入れてくれているが，あまり複雑なてんかんの方のトランジションが出来ない状況